

「生き残るものは、強い者ではない。変化に対応できるものである。」

中野区立小学校教育研究会会長 中村 明子（啓明小学校 校長）

中野区の小学校教育研究会は、区内二十一校の学校教職員が会員となっている研修組織です。中野区教育委員会のご理解の下、月に一回水曜日の午後には、教科・領域等の専門に別れて研修や研究を行っています。中学校にも同様に中学校教育研究会があり、研究活動を進めています。

中野区教育振興会の皆様には、長年にわたり両研究会の研究活動に多大なるご支援を賜っております。いつもありがとうございます。心より感謝申し上げます。

さて、著書「種の起源」を書いたダーウインの名言です。

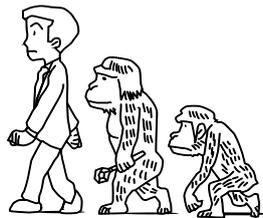
ダーウインが、測量船ビーグル号に乗り、世界一周航海をしていたところ、途中、立ち寄ったガラパゴス諸島で、ゾウガメの甲羅の形が島ごとに違うことなどを発見します。

そこから、生き物は、たくさんの種類のものが最古からあるわけではなく、長い歳月をかけて、進化し、環境に合わせて、体の形や機能を変えているのではないかという説を發

想します。いわゆる進化論です。今では、ほぼこの説が正しいことを様々な生き物の生態から立証しています。生存可能な生物の数には限りがあり、生物は増えすぎたり、減りすぎたりしながら、性質を変化させ生き残っていくのです。

「生き残るものは、強い者ではない。変化に対応できるものである。」とダーウインは言っています。

この変化に対応できる力が、これからの時代に生きる人たちに重要です。この二十年で、駅の改札は自動になって人がいなくなり、電話はコードがなくなりどこにでも持ち運べるのが当たり前でコンピュータ機能まで付いています。昔から変化はありましたが、その速度が速くなっています。二十三十年、今ある職業の六五%がなくなると言われています。子供たちは何をしていますので



しょうか。

そこで、今学校で学んでいる子供たちには、変化に対応して、新しい物を創り出す、創造性が豊かな人間に育って欲しいと願っています。

科学や医療も、文学や芸術も、スポーツや運動も、政治や外交も創造的な分野であり、また、身近な生活や学習の向上への努力の中にも創造的な力が必要です。

今年度、十年ぶりに学習指導要領の改訂がありました。その改訂の趣旨は、まさにこの「変化に対応して新しいものを創り出すための資質・能力の育成」です。子供たちには、この力を身に付けて、自分の分野で社会に貢献して欲しいです。

新型コロナウイルス対応は私たちに、変化に対応して新しいものを創り出す機会を与えました。中野区の公立小中学校は、三月から五月末まで臨時休業、六月に三時間授業を二部制で行う分散登校が始まり、夏休みを短縮して授業を実施しました。その間に先生たちは、ホームページからの時間割や動画配信、学校によってはオンラインでの学活や授業を行い、人と人が直接会って話せない代替として、結果としてIT利用が進みました。

また、社会全般が、人と人が距離をとらなければならなかったり、移動が制限されたり、マスクを着けて換気しなければならぬ状況下で、今まで当たり前だと思っていた価値観が覆され、新しい行動様式を生み出しました。

ピンチはチャンスです。この生活の変化に対応し、新しいものを創り上げた時に、人類はまた発展していきます。新しい中野区の教育を、小学校教育研究会・中学校教育研究会や中野区教育振興会に関わるこの人の輪で創って行かれたら素敵です。

パドルテニス

硬式テニスの小型版

部活に最適ニュースポーツ

練習場所：中野体育館 (03-3389-3151)

毎週：月曜午後 / 水曜夜間 / 金曜午前午後

問合せ先：03-3368-8526 (亀石)

